



発行

財団法人 東京都生涯学習文化財団
東京都埋蔵文化財センター

〒206-0033

多摩市落合1-14-2

☎042-373-5296

東京都埋蔵文化財センター報 No.58

平成15年6月30日

<http://www.tef.or.jp/maibun/>



新宿六丁目遺跡 土坑より出土した一括の陶器

江戸開府四〇〇年と「江戸遺跡」の発掘

特別調査専門員 佐藤 攻

慶長八（一六〇三）年二月十二日、徳川家康が後陽成天皇から征夷大将軍に補任され、江戸幕府が開かれ四〇〇年が経ちました。本センターにおいても十一月に文化財講座「江戸遺跡から学ぶ」を企画しています。江戸の町並みは、幕府が開かれてから急速に整備が進められ、特に江戸城の下に広がる江戸湾に面した湿地帯に向かって大規模な土地造成が行われました。

港区汐留遺跡（旧新橋停車場跡地）において、龍野藩脇坂家・仙台藩伊達家・会津藩保科家の屋敷が作られるときに、江戸前島の湿地帯に大量の杭を打ち込み、板材やしがらみを用いた山留めを各藩ごとに行って土地造成をしたことが、山留めの技法の違い等の発掘調査の成果によって明らかとなりました。

また、千代田区外神田四丁目遺跡（旧神田青果市場跡地）で、武家屋敷・町人屋敷の発掘調査が行われ、埋め立てに使用された土留めの杭やしがらみが発見され、埋め立てられた土砂の中に縄文時代の貝塚の貝や土器石器類と赤土が多量に見られました。この地が幕府によって江戸川を東流させ隅田川につながる神田川と呼ばれる水路を神田山を開削した土砂により、駿河から徳川の家臣団を移住させる屋敷地の造成を行ったことを裏付けることができました。

このように、発掘調査によって徳川氏の江戸の都市開発を解き明かすことができます。発掘のデータはそれを示しているといえるでしょう。

今後とも、本センターは「江戸遺跡」の調査を行い、江戸遺跡研究の中核としての重要な役割を果たしていくことが期待されます。

遺跡だより ⑥6



八王子市 No.413遺跡

八王子市No.413遺跡は、多摩川水系大栗川の中流域に位置しています。この跡の周辺には、和同開珎が出土したNo.71遺跡や、古代の木製食器が大量に出土したNo.107遺跡などがあり、多摩丘陵の中でも特殊な遺跡の多い地域として知られています。

遺跡が立地する地形は、寺沢川が開析した谷の戸口付近の丘陵裾部の緩やかな斜面地です。遺跡の調査は、すでに多摩ニュータウンNo.436遺跡として平成2年と同9年に行われ、縄文時代、古代、中世、近世の遺構・遺物が発見されています。その中でも特に注目されるのが、奈良時代から平安時代にかけての掘立柱建物数棟を含む50軒以上の竪穴住居跡が発見され、比較的大きな集落遺跡であると判明していることです。また、

出土遺物の中には、奈良時代に都で使われていた二彩陶器など、他の地域から搬入されたものも発見されています。

今回の調査は、前回の平成2・9年に行われた調査地点に挟まれた地区を対象としています。

4月までの調査では、竪穴住居8軒と平安時代の土坑1基、縄文時代の土坑1基が発見されました。このうち竪穴住居跡は平成2・9年度に調査された奈良・平安時代の集落跡とは一連のものともみられ、竪穴住居跡の軒数がさらに増えたこととなります。

調査された住居跡は、近世以降の耕作によって削平され、遺存状態が悪いものが大半でしたが、数軒の竪



穴住居跡ではカマドや床の状態が良好に残されています。

その内の1軒のカマドには、天井はすでに壊れてしまいましたが、煮炊き用の甕を支えるための支脚と呼ばれる石が2ヶ所に据えられた状態や、良く焼けた壁と床が残され、その使用の状況をよく留めていました。

また集落の集中する地点からやや離れた位置で発見された住居跡では、一部が平成14年度の調査範囲

囲外のため平成15年度に2段階で調査を行いました。住居内に多くの遺物が残されていました。その中には、この時代の一般的な土師器や須恵器の他に、糸を紡ぐための鉄製の紡錘車、灯明に利用したとみられる油の付着した須恵器の坏、罌で「大



▲平安時代竪穴住居跡群

(写真右) 3号住居跡カマド

1号住居跡の遺物出土状態



須恵器坏「井」

須恵器坏「大」

須恵器坏灯明具

須恵器坏「井」

土師器坏「井」

紡錘車

今回の調査によってこの地域の古代集落の新たな資料が追加されたこととなりました。今後は、これらの資料を整理・分析し、より詳細な地域史の解明に取り組んでいきます。

(竹花宏之主任調査研究員)

文化財講座 〈48〉
大江戸掘り帖～二十五～

大名屋敷のゴミ

港区六本木の東京大学生産技術研究所・物性研究所跡地に位置する宇和島藩伊達家屋敷跡遺跡は、明暦元(二六五年)から伊予宇和島藩10万石の中屋敷として、天和元(二六二年)からは上屋敷として使用されていました。発掘調査では屋敷に伴う地下室や井戸、石組の遺構などが多数検出されました。その中でもこの遺跡の特

色として挙げられるのが、いわゆる「ゴミ穴」が多数検出されたことです。

ゴミ穴とは、当時の生活で不要になったものをまとめて捨てた穴ですが、1×2 m程度から、大きなものでは一辺20 m、深さ4 mになるものもあります。

これらの穴には、割れて不要になった碗や皿などをはじめ、当時の食卓をにぎわした食材の食べかす、焼けて不要になった屋根瓦など、様々なものが投げ込まれています。

当遺跡からは総数で13万点を超える大量の遺物が出土していますが、これらの多くは「ゴミ穴」から出土しており、いかに多くのものが捨てられたかが推察されます。



ごみ穴の断面 (写真右側)

このように書くと、何でもかんでも捨ててしまっているように思えますが、中には割れた茶碗を「焼継ぎ」という技術で修復しているものや、壊れたものを全く別の用途に転用して再利用しているものもみられます。

現代と変わりがなく、江戸の世でもゴミ処理は大きな問題であったようです。ここ宇和島藩邸でも、日々の生活、あるいは災害などで大量に発生したゴミの片づけに、大いに頭を悩ませていたことがうかがえます。

(西山博章調査研究員)



焼継ぎによって修理された茶碗 (白い部分)

保存科学室(ぼれ話) (二)

木製品の保存処理について

埋蔵文化財の調査で出土する木製品が土中に残るのは、常に水漬け状態(水浸出土木材)であることが必要で、乾燥したり湿ったりする環境では、微生物やその他の要因で腐食し、消滅してしまいます。

一般に水浸出土木材は、木材中に30〜70%近くの水分を含むことで形を保っています。そのため自然乾燥すると木材中の水分が急速に蒸発するため、収縮し変形してしまいます。従って調査の進捗にあわせて、すみやかに木材を取り上げ、水道水を入れたビニール袋に密封し仮保管をします。この方法は、岡田文男氏が考案したもので、従来の水槽に入れて保管する方法に比べ、水替え作業が必要なく、持ち歩きや、袋の表面から観察することもできます。

次に保存処理方法では、

ポリエチレングリコール(PEG-400)や高級アルコールが用いられますが、最近では糖アルコールの一種、ラクチトールを用いる方法があります。

ここでは、ポリエチレン



ビニール袋に密閉した状態



PEG含浸装置

グリコールの保存処理方法を紹介します。このPEG-400は、エーテル基の親水性で、水によく溶ける性質があり、中性洗剤や化粧品品の可塑性剤に用いられています。比重は1.19と水より重く、常温では乳白色のロウ状固体であり、水温55℃前後で液体になります。この水に溶ける性質と常温では固まる性質を利用したのが、PEG-400を使用した保存処理方法です。通常は水温約60℃の含浸装置に水浸出土材を入れ、約20%のPEG溶液からはじめ、40・60・80%と濃度をあげ、約一年間で100%にして木材中の水分とPEG-400が置換された段階で取り出し作業をおこないます。次回は、当センターの処理方法を紹介します。

(上條朝宏主任調査研究員)

平成15年度の広報普及事業

平成15年度は、常設展示『多摩の三万年を訪ねて』・企画展示『縄文草創期の世界・前田耕地遺跡を中心に』のテーマで行っております。

前田耕地遺跡は平成2年度に国の重要文化財の指定を受けており、今回は多数の槍先形尖頭器や接合資料などを展示しております。
広報普及事業では新規事業として年に3回勾玉作り教室を、江戸開府

400年の記念事業として文化財講座「江戸遺跡から学ぶ」を11月に4週連続開催することになりました。
また「多摩センターすたんぷラリー」も実施しており、多数の参加をお待ちしております。

平成15年度 広報普及事業のご案内			
日	時	行事名	内容
7/12 (土)	13:30~16:00	第1回 文化財講演会	演題「東アジアの土器の始まり」 講師 大貫静夫 (東京大学文学部)
7/26 (土)	10:00~11:00 13:30~14:30	展示説明会	展示解説、実物の土器・石器にふれるなど 参加自由
7/31 (木) 8/1 (金) 8/23 (土)	9:15~16:00	縄文土器作り教室	縄文土器製作と野焼きを全3日間で 参加費1,000円 小学5・6年生 (保護者同伴) -15組、一般-20名 *7/10必着 (多数の場合は抽選)
8/9 (土)	10:00~12:00 14:00~16:00	勾玉作り教室	午前 小学生と保護者対象 20組 午後 一般対象 30名 参加費400円/人 *7/24必着 (多数の場合は抽選)
9/10 (水)	13:30~16:00	第2回 文化財講演会	演題「縄文土器の起源」 講師 可児通宏 (東京都教育委員会)
10/11 (土)	13:30~16:00	第3回 文化財講演会	演題「アフリカ大陸の土器の始まり」 講師 高宮いづみ (近畿大学文芸学部)
10/25 (土)	10:00~12:00	勾玉作り教室	「とうきょう親子ふれあいキャンペーン」 小学生と保護者対象 20組 参加費400円/人 *10/9必着 (多数の場合は抽選)
10/25 (土)	13:00~16:00	火おこし体験、泥面子作り、遺跡庭園の探索	「とうきょう親子ふれあいキャンペーン」 小学生と保護者対象 20組 参加費500円/組 (2名) *10/9必着 (多数の場合は抽選)
11/5 (水) 11/12 (水) 11/19 (水) 11/26 (水)	14:00~16:00	江戸開府400年記念文化財講座 (第1回~第4回)	「江戸遺跡から学ぶ」 講師は当センター調査研究員 当日先着120名 無料
12/20 (土)	10:00~11:00 13:30~14:30	展示説明会	展示解説、実物の土器・石器にふれるなど 参加自由
11/30 (土)	13:30~16:00	第4回 文化財講演会	演題「前田耕地遺跡と同じ頃の西アジア」 講師 西秋良宏 (東京大学総合研究博物館)
1/15 (水)	13:30~16:00	第5回 文化財講演会	演題「多摩丘陵の後期旧石器時代遺跡の成り立ち」 講師 比田井民子 (当センター主任調査研究員)
2/12 (水)	13:30~16:00	第6回 文化財講演会	演題「多摩ニュータウンの石器-縄文時代を中心に-」 講師 原川雄二 (当センター主任調査研究員)
3/27 (水)	10:00~11:00 13:30~14:30	展示説明会	展示解説、実物の土器・石器にふれるなど 参加自由
通年行事	多摩センターすたんぷラリー (多摩センター駅周辺公共施設5館)		5館全てのスタンプを集めると記念品贈呈 (シートは各館で配布)
平成15年度常設展示・企画展示「縄文草創期の世界-前田耕地遺跡を中心に-」			
終了行事	土器の野焼き 5/10 (土) → 見学者91名	展示説明会 5/31 (土) → 参加者22名	
	勾玉作り教室 6/14 (土) → 参加者53名	火おこし体験等 6/14 (土) → 参加者47名	
	映画鑑賞会 6/21 (土) → 参加者78名		

R100

古紙100%配合の再生紙
を使用しています。

当センターより次の2名が内定しました。
及川良彦主任調査研究員「考古学から見た平地住居-弥生時代の多様な建物跡からなる集落の構造について」
竹尾進主任調査研究員「江戸遺跡における銭貨のセットによる年代決定」

日本学術振興会
科学研究費補助金の交付

現地説明会「新宿六丁目遺跡」

日時：9月13日(土) 12:00~15:00
場所：新宿区新宿6-27-7 (新宿文化センター前)
交通：都営新宿線・営団地下鉄「新宿三丁目」駅C-7より徒歩10分、大江戸線「東新宿」駅より徒歩5分
*お車でのご来場はご遠慮ください。
【小雨決行・雨天中止】

【巻頭写真解説】 出雲広瀬藩松平家下屋敷の土坑出土。土瓶1・水滴2・碗2という組み合わせから、煎茶に関わる陶器であろうか。時期は江戸時代後期です。(写真撮影 星野 薫)